

北陸東海近畿土を考える会 夏期研修会を開催しました

2026年8月4日

北陸東海近畿土を考える会は、7月16日（木）、滋賀県彦根市で夏期研修会を開催しました。今回は、湖東地域で昨年特に成績の良かった生産者の乾田直播ほ場5か所を巡回し、農研機構の藤本氏と元農研機構の岡本氏が、生産者から今シーズンの栽培状況について直接話を伺いました。今井会長のあいさつの後、5か所のほ場巡回がスタートしました。



今井会長



岡本氏



藤本氏

①株式会社 Y,s プロダクションは、ドローン直播への本格的な取り組みは2年目となります。品種は、耐倒伏性・高温登熟性に優れる直播栽培向きの多収良食味水稻新品種「しふくのみり」です。将来的には、多くの作業をドローンで省力化していきたいと語っていました。

①Y'sプロダクション



②やすい農園



③たぐち農産



④フクハラファーム



⑤稲村農場



② やすい農園は、昨年の乾田直播1年目は、10a当たり11俵を超える収量を達成しました。今年は、「にじのきらめき」を播種。雑草はノビエがやや多い状況で、除草剤は適期に散布することの重要性を改めて実感されていました。

③たぐち農産は、7割のほ場で乾田直播栽培を行っています。ラウンドアップを適期に散布することで、3回の除草で済ませることを重視していて、基肥は、ドリル播種と同時に施肥を行う側条施肥を採用しています。

④有限会社 フクハラファームは、5月25日の大麦収穫後に、粉碎、反転耕起、碎土整地、均平を経て、5月30日に播種を行いました。品種は、短強稈で栽培特性が良い「ゆめおうみ」です。今後は、小麦跡の乾田直播にも挑戦したいとお話されていました。

⑤株式会社 稲村農場は、深層施肥に挑戦しました。施肥深さ20cm区と15cm区（ともにN15kg/10a）のほ場を比較し、葉色の違いを確認することができました。

その後は、琵琶湖湖畔のバーベキュー会場に場所を移し、鳥取県から参加された薮内氏の乾杯のご発声で、農業談義に花が咲き、今井会長からご提供いただいたスイカでスイカ割りを行い、会場は大いに盛り上がりました。ご参加いただいた皆様ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。今後とも北陸東海近畿土を考える会の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



総勢83名が参加(土を考える会会員様 36名、一般参加者様22名、研究機関・企業様15名、事務局10名)